

『2009年(1月～12月)JVA統計調査』について

当協会は3月10日(水)午前11時より、協会会議室において『2009年(1月～12月)JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。当日の出席者は、木村康詩統計調査委員会委員長(株)ポニーキャニオン)、後藤健郎理事・事務局長、肥田幹夫管理部長、上田直子管理部次長兼広報課長。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2009年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.69』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2009年(1月～12月)の実績について

本年調査からの変更点・・・2008年調査では、ブルーレイの実績にHD DVDを含んでいたが、2009年上半期調査からHD DVDを調査の対象外とした。そのため、ブルーレイの前年比やビデオソフト全体の売上の前年比を算出する際には、2008年の実績からHD DVD分を除いた数値と比較している。

1. 2009年のビデオソフトの総売上は2739億6300万円で前年比95.8%となった。下半期の総売上は1462億3200万円で前年同期比101.2%となり2008年の下半期をやや上回る実績となったが、上半期の落ち込み(前年同期比90.3%)が響き、年間で4.2%の前年割となった。年間実績では2004年の3753億9300万円をピークに5年連続で前年割れが続いているが、1割以上の前年割れとなった2008年に比較すると減少率は穏やかなものとなった。

一方、数量においては8783万9326枚本で前年比102.0%となり、4年ぶりに上昇に転じた。ブルーレイの出荷数量の増加(前年比235.9%)およびDVDビデオのレンタル店用出荷数量の増加(同108.2%)が貢献した。

2 . ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVD ビデオが 2492 億 8000 万円で前年比 90.4%(構成比 91.0%)と約 1 割減となったが、ブルーレイが 241 億 1500 万円で前年比 246.9%と大きく伸長、構成比は 8.8%となった。UMD は 4 億 3200 万円で前年比 172.3%(同 0.2%)となったが、ビデオカセットは 1 億 3200 万円で前年比 51.2%、構成比 0.0%でほぼ市場はなくなったと言えよう。

また、それぞれのメディアを合算した流通チャネル別(ビデオカセットを除く)では、「販売用」が 1790 億 5600 万円で前年比 97.0%となり、全体の 65.4%を占めた。「販売用」合計金額における DVD ビデオとブルーレイと UMD の割合は 87.1 : 12.7 : 0.2 となった。また、数量においては 5534 万 3009 枚で同 99.3%となり、ほぼ前年並みの出荷数量となった。一方、「レンタル店用」は総売上金額の 34.4%を占め、940 億 8100 万円(前年比 94.4%)となったが、前年に続いて 1000 億円を割り込むこととなった。DVD ビデオとブルーレイと UMD の割合は 98.5 : 1.5 : 0.0。数量においては 3207 万 8177 枚で前年比 108.9%と前年を上回った。

3 . DVD ビデオの売上金額は 2492 億 8000 万円で前年比 90.4%、2005 年の 3477 億 0700 万円をピークに 4 年連続で前年を下回ることとなった。

DVD ビデオの売上金額における「販売用」「レンタル店用」「業務用」の割合は、62.6 : 37.1 : 0.3 となった。最高実績となった 2005 年当時の割合は 75.4 : 24.1 : 0.5 となっており、徐々に「販売用」の割合が減少し、「レンタル店用」の割合が増してきている。

4 . DVD ビデオの「販売用」の売上金額は 1559 億 6100 万円で、前年比 88.9%となった。売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位は『日本のアニメーション(一般向け)』で 24.8%を占めたが前年比は 81.9%と落ち込んだ。一方、『音楽(邦楽)』は前年比 113.7%と好調で、構成比も『日本のアニメーション(一般向け)』に迫る 22.1%となり第 2 位だった。3 位の『洋画』(構成比 11.4%)は前年比 71.4%と落ち込み、4 位の『邦画』(同 8.4%)も同 94.5%となり、『音楽(邦楽)』以外の主だったジャンルでは軒並み前年を割り込むこととなった。

5 . DVD ビデオの「レンタル店用」売上金額は 926 億 3200 万円で前年比 93.6%で、2007 年をピークに 2 年連続で前年割れとなった。

DVD ビデオの「レンタル店用」の売上金額をジャンル別に見てみると、売上構成比の 1 位は『洋画』で 22.9%を占めるが前年比は 79.2%で、2006 年をピークに前年割れが続いている。構成比 2 位は 17.9%を占めた『海外の TV ドラマ』で、前年比は 104.2%と好調だった。ちなみに『海外の TV ドラマ』と『アジアの TV ドラマ』を合計すると、構成比は 27.7%となり、『洋画』を抜いて 1 位となる。『海外の TV ドラマ』とほぼ同じ

実績だった『日本のアニメーション(一般向け)』は構成比 17.5%で第 3 位を占め、前年比は 90.2%と前年を割り込んだ。構成比 14.4%で 4 位の『邦画』は前年比 107.0%と前年を上回った。

6 . ブルーレイの売上金額は 241 億 1500 万円で前年比 246.9%と大きく伸長した。

ブルーレイの売上金額のうち 94.0%を「販売用」が占め、226 億 5900 万円(前年比 251.7%)となった。「販売用」の売上金額をジャンル別に見てみると、半分以上の 52.5%を『日本のアニメーション(一般向け)』が、31.0%を『洋画』が占めており、この 2 つが 2 大ジャンルとなっている。構成比 3 位は 5.0%を占めた『邦画』だった。

一方、「レンタル店用」は 14 億 4900 万円でブルーレイ売上全体の 6.0%にとどまっている。ジャンル別では『洋画』が 67.8%、『日本のアニメーション(一般向け)』が 16.5%を占める。

7 . それぞれのメディアを合算した流通チャネル別(ビデオカセットを除く)の「販売用」合計売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位は『日本のアニメーション(一般向け)』で 28.5%を占め、前年比は 98.6%だった。同ジャンルは DVD ビデオの売上金額が減少しているものの(前年比 81.9%)、ブルーレイの需要が拡大しており(同 272.3%)、メディアを合算すれば 1.4%の減に留まっている。同ジャンルの合計金額における DVD ビデオとブルーレイと UMD の割合は 76.0 : 23.3 : 0.7 となった。また、構成比第 3 位の『洋画』も同 85.8%と DVD ビデオの前年比(71.4%)より高くなり、数量においては同 100.0%と前年並となる。また第 4 位の『邦画』も DVD ビデオの売上金額では前年比 94.5%だが、ブルーレイと合計すると(UMD の売上は無し)同 102.0%と前年を上回った。

以 上